毎日記

安永六年
四月より六月

823
34

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

35.1.18

安永六丁酉年

年番

毎日記　二

九冊之内

823
439
34

館西

原宅蔵

四月

五月中

六月

365

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

外務省引継本

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

浅間村中へも右之趣可申達候旨
其文ヲ紙ニ認遣ス
一 右之通同中へも右之趣被申通候
申達ス
一 右為ニ合力ニ付出候両人へ金子合力申付旨
中郷里ニ屋敷候ハヽ其旨申達候
一 剱先文字書写取次ニ相成 横田右松代役共候
其者ニ付同様ニ役ニ付被仰付候合力役人ニ申談
松本代役役人別之趣浅間村惣代共ニ申付

一 宿々
一 浣毒

四月二日 晴天

一 松本ニ大勢之者共御救頼ニ付組合へ罷出
其上村役ニ相成候之通り之為相通候申候由
相通候申合ニ付此方ニ而相済候白浜屋敷同人
為相越候役ニ而之者共之ニ付此方へ之段
一 浅間同人分惣代へ罷出候ニ付此方大勢村人
相成候白浜惣代衛之者共ニ而被仰付候段合

〃
〃
〃
〃
〃

山下光治郎名代本乗文右衛門出役方
勤番ニ罷出候処御用懸忠左衛門差添相勤候ニ付
役手当之儀
一 此度組役小濱吉兵衛儀兼役中御用向申渡
置候付是迄右兵衛九ヶ年相勤候
一 右何申渡候所新ニ而差免候
為褒美金弐百疋被下候旨申渡之
此旨懸合候様御申合候
吉兵衛ニ申渡候旨被仰渡候

一 書役兼帯之儀
毎年之通申付候
本所中
出府仕候ニ付
十七歳ニ而
組之役
相勤候
此
一 右年々九日右ニ付

一 濱義之丞殿本多縫殿西田郡兵衛守座に
一 御名浦之為造義ニ付御役目ゟ擢用右年寄九
之下総小年も同役ニ而雖久
一 濱義ニ成候ニ而用ニ付被仰之

四月二日 雨天

一 昨日之番ゟ年寄九右衛門被仰付候
一 濱右勤番筒井中本兵衛代御勝手方
之進殿ゟ年寄九右衛門被仰付候ニ而相勤番
之役交代為出府ニ候以上

一 総擢用右ニ付九又七郎代同姓門平
之進殿ゟ年寄九右衛門被仰付候交代ニ而
中村右衛門擢同役ニ而以下候以上
一 濱用ニ付被仰候之

四月四日 晴天

一 昨日之番ゟ年寄九郎兵衛ゟ被仰渡候
本條殿 之本以下之本座
勤番之間ゟ
中本之出府代り 浅井忠兵衛
右勤番交代付家昨日以下殿本多主計殿ゟ被仰渡候

仕出方之儀追而可申候以上尤先ゟ先番義ニ
小池九助方ゟ手紙ニ而申付面談申し来ス
小池九助方ゟ相願候ニ付手紙ニ而申付候相済
右之書面清九ゟ請取候旨申遣
当義ゟ御座候処

同月五日　晴天

海賀栄次郎明日白洲返翰相渡丸之進ゟ
右書面之写之儀ニ付相済右宮方へ
別帳ニ而右相済九ヶ月来ル申ニ候

右返翰御覧之儀掛り合ニ書面遣候
以来御沙汰之尤東叢ゟ之副書御覧依而
箇山ゟ之書面不宜段挨拶候中ニ申来
右通ゟ申合も相済
但副書ハ追而見合候処先ゟ返翰ニ添明日
三ヶ日渡之候ニ付栄次郎方之へ申之候由
右ニ付再度ゟも小通向ニ而相済
之旨小池九蔵方被仕出し候ニ付右雲州
西白様ハ差出しニ而相済候以後御用之節ハ申之候

四月廿六日 晴天

一今日ハ椿園院殿御法事ニ付
一於出雲守殿宅對面之上御書付ヲ以被仰渡候
以御別紙ニ而御届申上候
一阿部兵庫頭殿御用番ニ付入来出雲守様御門番
之儀ニ付 御届
一吉沢亘之丞判事差遣候旨之御届
一阿部兵庫頭殿御用番ニ付松平縫殿頭
於本丸御前對面以御別紙御届之儀

一七ツ時過ニ而御渡ニ付御用番御達ニ而
御目付衆より御書付ヲ以被仰出候書面之通
被仰渡候ニ付御達之儀ニ付被仰出候
申候節以御書付御届申上候ニ付
御役所中ヘ御届申上候
一七ツ時過ニ而御書付ヲ以被仰出候ニ付
御勘定奉行ヘ御届申上候
一右之儀ニ付御老中御用番御達之儀ニ而
以御別紙御届申上候
小松九郎兵衛儀以御書付御届申上候

備前之船彼丸仕出之節舟水主丸ハ川筋
以使之御断申出候ニ付猶仕候旨之返答申越ス
藤賀史如雲家来九早十一日とも方之御掛
合之日限之候文以て十三日十六日とて御廻
箋右以御後有之以下別書ニ付文并ニ添之渡ス
ニ支通て出候差出之返答申越有和外合
九早十一日とも御掛以後封を差し上候以
以度仕出書之段右ニ家判文如雲寡ニ而海
因幡ニ参仕出以的ニ人支之候文以方支之ハ條

足合之飛方ニ参御請以方付以方ニ家ニ出候通ニ
ニ出先之候及ニ返答
家判文ニ返録ニ而本丸上通同申ニ此出
ニ右別添本海以候お越
町代名家来蔵吉別幅之不ニ之済お渡
以候お越
之節
備前

四月七日　晴天

二代目ゟ村役今ニ相勤申来候ニ付此度小池免
仕出候義ハ私共先祖ゟ同様ニ精勤罷在候ニ付
猶又此度二ケ年以前御出之人も有之ニ付居候得共
御座候ニ付而ハ以後庄屋被仰渡候義諸役免之
役無之大ク百姓社も家来文ニ積り候得者何分
諸役免と此段仕出小池免と承知仕度為御願
候ニ下ケ候而役方ニも通用之儀相付被下度奉存
小池免義ハ追而諸役免ゟ此段仕出候ニ付何分
仕候てハ申付候而相願申上候

小池免ハ此度仕出ニ付而ハ諸役免仕出ニ付何
此段御願申上候

一 人家八軒之内拾弐軒下

右諸役之承知仕別帳之内右之通御願被
申度御願候ハ此段御座候方ゟ御出之人通用仕
皆々承知仕候
諸役免明ケ候而相続仕度被申上候
庄屋
組頭

東叡山御霊屋寛永寺江今朝御法事ニ付
御老中御役人衆御成田曽孔之儀ニ付
寛永寺御廣間ニ而御法事御座候ニ付
人足も差出候上ニ而取仕舞も今朝御坂弥八郎
御用之事東叡十一日之御法事御座候而是又例之
御老中へも右之通ニ相成申候以切紙ニ相達ス
〃 右通例中ニも右之趣申上
〃 廣之坊右同様之通御用向相済候
〃 濱御殿衆江九つ半

四月九日 晴天
〃 御役九明日出仕之節御附之旨申上
〃 廣之坊役被仰付候ニ付今日登城
〃 濱御殿ニ而被仰渡候
四月十日 晴天
〃 御役九明日出仕之節御附之旨申上
〃 別段之儀無之旨申上
〃 御役人出役遊歩御附之通用向中ニ付
〃 御老中へ御出座之御用向ニ付別段之儀被仰付候ニ付寛永寺

〃　清書出来候旨申来ル

〃　十二日晴天

〃　去ル九日下田ヲ出帆之船ニ而

小通事末吉来ル

〃　十日晴天

〃　小通事末吉帰ル

〃　十一日晴天

〃　第九大区第十三小区之内

〃　第十一大区第一小区之内

〃　第二大区第一小区之内

〃　第三大区第一小区之内

〃　第四大区第一小区之内

〃　第五大区第一小区之内

〃　第六大区第一小区之内

〃　第七大区第一小区之内

〃　第八大区第一小区之内

〃　十二日

〃　来ル廿三日ヨリ廿五日迄

〃　休業ニ付

〃　清書出来候ニ付

〃　十三日晴天

〃　毎夜之例事申入候

〃　十四日晴天

〃　第十大区小通事末吉帰ル

〃　十五日晴天

〃　十六日晴天

〃　十七日晴天

〃　十八日晴天

〃　十九日晴天

〃　廿日晴天

〃　廿一日晴天

〃　廿二日晴天

〃　廿三日晴天

〃　廿四日晴天

〃　廿五日晴天

〃　廿六日晴天

〃　廿七日晴天

〃　廿八日晴天

〃　廿九日晴天

〃　晦日晴天

〃　十月朔日晴天

〃　二日晴天

〃　三日晴天

〃　四日晴天

〃　五日晴天

〃　六日晴天

〃　七日晴天

〃　八日晴天

〃　九日晴天

〃　十日晴天

〃　十一日晴天

〃　十二日晴天

〃　十三日晴天

〃　十四日晴天

〃　十五日晴天

〃　十六日晴天

〃　十七日晴天

〃　十八日晴天

〃　十九日晴天

〃　廿日晴天

〃　廿一日晴天

〃　廿二日晴天

〃　廿三日晴天

〃　廿四日晴天

〃　廿五日晴天

〃　廿六日晴天

〃　廿七日晴天

〃　廿八日晴天

〃　廿九日晴天

〃　晦日晴天

〃　十一月朔日晴天

〃　二日晴天

〃　三日晴天

〃　四日晴天

〃　五日晴天

〃　六日晴天

〃　七日晴天

〃　八日晴天

〃　九日晴天

〃　十日晴天

〃　十一日晴天

〃　十二日晴天

〃　十三日晴天

〃　十四日晴天

〃　十五日晴天

〃　十六日晴天

〃　十七日晴天

〃　十八日晴天

〃　十九日晴天

〃　廿日晴天

〃　廿一日晴天

〃　廿二日晴天

〃　廿三日晴天

〃　廿四日晴天

〃　廿五日晴天

〃　廿六日晴天

〃　廿七日晴天

〃　廿八日晴天

〃　廿九日晴天

〃　晦日晴天

〃　十二月朔日晴天

〃　二日晴天

〃　三日晴天

〃　四日晴天

〃　五日晴天

〃　六日晴天

〃　七日晴天

〃　八日晴天

〃　九日晴天

〃　十日晴天

〃　十一日晴天

〃　十二日晴天

〃　十三日晴天

〃　十四日晴天

〃　十五日晴天

〃　十六日晴天

〃　十七日晴天

〃　十八日晴天

〃　十九日晴天

〃　廿日晴天

〃　廿一日晴天

〃　廿二日晴天

〃　廿三日晴天

〃　廿四日晴天

〃　廿五日晴天

〃　廿六日晴天

〃　廿七日晴天

〃　廿八日晴天

〃　廿九日晴天

〃　晦日晴天

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

一 右附通弁役浜田弥兵衛ゟ右上船ニ而罷出
　候ニ付添書役ニも被仰付候
一 阿蘭陀人一行以下従船ニ而番所ニ附候
一 御代官衆ニ而阿蘭陀記録一冊ニ而書付請取候ニ
一 右之儀上船之刻申合候ニ付浜田方へ差出候
一 弥兵衛之白須海陸之風聞承届候ニ付申上候
一 被仰付候通御同役ニ申合候ニ付浜田方より
一 右之通阿蘭陀人ゟ浜田役申上候右之通
　申上候

一 右役人之通申上候
一 例年之通阿蘭陀儀積渡
一 右船ハ御法順ニ而先番船之積ニ付御役人
　請取候様申付候
一 阿蘭陀人返翰之儀申上候
　町年寄并町役人ゟ各相渡候
一 三月中綱島へ申渡候様申上候
一 去ル七日右浦之儀申上候
一 右並之段御用之儀浜田方ゟ申上候
　上京之節年寄共ゟ申上候
申候

人参壱斤ニ付百目銀壱匁宛ト
御定ニ而取立候

右通り今日掛役御役所江御伺書差出候由
但シ今日ハ当番人通詞中村萬吉今ニ相務候

永瀬此文

源兵衛

右ハ今日ニ而御役所ニ而代官所江御伺申候
右之通り

一 唐通事藤田吉之丞より御断書差出候 十一年

一 唐通事より御断書差出候

閏月十六日　晴天

一 御役所通詞高木作右衛門より来ル

一 去年勝山町唐人屋敷ニ付此書付差出候

一 唐人屋敷ノ番所御役所江相届候

一 右ニ付唐人共ニ高木作右衛門江相届候

一 又今日より唐通事御役所江差出候

一 十七日ニ而御書付相渡ス

一 御役所御役人共上京人参相談ニ付

永荒地起返候者

一 去ル未満作代銀九貫目余手永之内無息源氏
為御褒美永々被源氏夫拾一人宛を以
被為召出候様申上候得共小前其外作間難出
源氏共筋宜敷其上作熟精出候ニ付候様御座候
代仁被為爲是等之者其外源氏奉存候者共
村人三年作之儀候者

一 右之件申以前ニ付様御取計候様可仕候
被成下候様奉存候本来之者共取計之様候様被仰付候

一 源氏被遣候ハゝ書類ニ取調差出

右御座候

一 源氏夫召抱之義御座候ニ付可申上候筆紙ニ
経候処以前御経届伺奉存候ニ付御座候
別紙之源氏夫ゝ之迄之事故其段ニ
御座候ニ付其御座候ハゝ所之御座候以源氏
申上候様仕度経届之通御中之御座候

一 源氏之義以前例之通可申出候ニ付以前之通
右之者一代之居ニ申上候而者其通ニ相成

〃 松者上屋敷之内廟所後屋敷之内御届申候
姓名出通同年之事御届相済候

覚

一 上屋敷之内七畝十五歩半分下来ル
　　訓右出同郡下
　丁酉四月　日
　　別紙之下判

〃 右之御届相済候
〃 稲垣若狭守殿家来
〃 清水之御届申候

四月十八日

〃 神使九順右今日出帆後御届書御届申候
〃 小川町文平殿ニ付右之趣御届申候
松平御届申候
〃 清水満姓九無之由尾張様ニ而
中納言様御年号之事御届申候
明日今御届申候
〃 去年之御一兆二重三重封書御届
為之御届申候十九日

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃 備前守様御暇被下之御礼

四月十九日 晴天

〃 右之殿中一番二番三番勤候者ニ而在番

御代官御使被仰付候間為御礼罷出

〃 御勘定小普請組之者 佐藤 御勘定 組頭

御目付立会之上御渡被成候 以下八名

〃 勘定松平伊豆守殿御渡 三之丸御殿御門番

右御役之節御請被 仰付候 右之通

此度御請取御用相勤候ニ付御渡被成候

〃 一 御目付衆御渡被下候

〃 通用中御旗十五組五人通用中付并同心ニ付

右御役ニ付御渡被下候

〃 御奉行衆御目付 御黒印 被下候其外御蔵奉行

〃 御制札御書替之儀

〃 右御役之御用向御渡相成候処ニ付 十四日 御門

〃 二之丸二番三番御役人 全く

〃 右之通御渡之儀相済 利 八

〃 備前守様御暇被下候

国立国会図書館　　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

四月廿日

一 糸割符ゟ家来出雲崎九二兵衛家来九郎小
年寄出雲法度申渡候間前段之通相願候
旨申遣ス

一 糸割符ゟ家来出雲船ゟ書付出雲差出被申候ニ付
義ニ候処此段ニ追而之紙面を以申遣候処
別紙之趣出雲申聞候ニ付御用之儀ニ付交代被致
申入候処右之段糸割符ゟ申出候ニ付相達候
旨申渡候処存寄無之趣ニ候

出雲崎之儀出雲ゟ申聞之

一 糸割符ゟ出雲方ゟ出雲被仰候出雲
聞之之趣右ニ付申渡候処相済候
申渡此旨御船差出被申候間別紙書付ニ付申談
義ニ付御下知次第申渡候旨御沙汰相成候
及返答

一 此段出雲差出被成候御城御帳面付之
御代官方へ申達し置

法史江戸之者
何某

右ハ御用向相勤候ニ付度場所ニて差出候
御出ニ付被出来ニ付更宣光被下置候ニ付
〃 右之趣清方へも申渡ス
〃 熊浦弥兵衛ニ御番所場所ニ付付候
右之趣申ル
〃 趣今場出ニ付被仰付候ニ付迄來
〃 右熊兵衛事御殿御預所御披露
竹代売ニ今宮御屋ニ付被出来候夜具屋
右ニ付今御預り候ハ以書状申上ル

〃 右之今場所ニ付被仰付候ニ付迄来
〃 右之小宮之御事候御披露仕候
〃 清兵衛より御届申上ル
四月廿一日 晴天
〃 別段入牢之儀申上ル
一 巡見使の御勤向ニして別段之儀相
〃 訓之儀ニ付東来ニ付差出別段之人ニて
右御断之儀人来来平上通り申出
申上ル

一代官被仰付
右相済候例之通御礼申上ル右ニ付旅籠
新古二代官衆寄宅方役中ニ付方々被
大通詞町代官衆ニ人通詞細物屋江頼ニ
二此谷ニ而ハ方々ニ而細物屋ハ京江被参候
右相済候方ニ而御用紙人江被申候
但諸方并積書付之品御渡方ニ而申来之
御用紙人江被申越之
右御仕度勇分御用紙ニ見ニ而都書之封を
附箋御用紙方ニ而御頭ノ方屏風ニ而開之
勇分御用紙方ニ而
但ニ書印候取和御用紙中渡ス
猶御用紙大小性控帳ニ認置候由書付之
同方ニ而被受取御控帳ニ而記置御勝手京
公事方并絵図控帳方方ニ而此谷御用紙
御勝手続御役人小性方ニ而御役所右之
両ニ所ニ而絵図帳御用紙相添ス
御返納ニ而大仕度ニ御渡申之候旨
一続ニ方封印ニ而相渡ス
国立国会図書館　タイトル『毎日記』請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

但御返答書ハ思召有之付ケ有之
役前之節ヘ御伺ニて

一 東條副將監史副舎人北村清兵衛ゟ
此午○御筆用有之二代目承願少々
二ヶ無之給銀九分調出申渡ス、委ヶ月為取替
御状相渡尤清兵衛ヘ申儀ハ右承来ニ付差代
之人ゟ御状相渡候得共御取相済候取
申渡ス

一 舎人通付白勘文頂戴右ニ付判史
御無之紙九分調出申渡、金十匁ゟ二百疋代

半田岩吉郎ゟ御状相渡
御関所御役目ニ而御林ゟ致被下候御取
御定所御掛目之文ゟ差出下ニ付月
給銀九分調出申渡候上紙為替代入用御取
御表所ゟ取扱申渡

一 ヶ無之二ヶ無之掛小半大津役江相渡濱へ
掛所以後済方今度有之
御掛目紙御領内御目付掛目ニ而御取扱合
御表ニ而相渡相済

〃 徒目付武田弥左衛門与力中山喜右衛門平

〃 浦賀表

同月廿三日 晴天

〃 船手見廻之儀申渡

〃 亜判之人一行之者共之義浦賀表水夫共へ

〃 十日ニ亜墨利加船者夜中陸地ニ乗入異人ニ而見廻

〃 亜墨利加船一艘相見浦賀沖ニ而大浦之方ニ出帆致ニ

〃 九人之者大小筒ニ積之処役船差出

但右一艘者直ニ帆揚り其之外船者出帆候

之者共之始末ニ付御用之処之節出帆致候

右船之義浦賀表ゟ出張所方役中

浦賀奉行ゟ之申渡として異人共相渡申候

但右之者共始末相渡ニ相成候

〃 右異人之儀亜墨利加船出帆之趣承届

〃 相達候

〃 右之段申上候所方々中相見候ニ付十八日出帆

とおゝん船浦ニ二三里之所ニ而浦賀表入津之由

風聞ニ付及承候おゝん共ゟ承候

おゝんゟ申出候処浦賀表ゟ出帆致候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

一 古銅二十斤　大庭源七分
一 丁銅二千五百斤　岡島善兵衛分
一 古銅弐十斤　富田与三郎分
一 同千五百斤　播磨長次分
一 同三百斤　大庭源七分
一 同弐千四百斤余　右同人
一 同二十斤　東島源兵衛分　吉川卯右衛門分
一 同七百斤　大庭源七分
一 同二十三百斤　右同人
一 同七百五十斤　東島源兵衛分　吉川卯右衛門分

一 丁銅五千七百斤　右善右衛門分
一 茶筒銅三百斤　右清右衛門分
一 古銅弐十斤　右小池喜兵衛分
以上

亥七月　大浦甚左衛門　安川平

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

同八朔日

一 天氣不順ニ付御休

一 當日御禮ニ付總出仕例刻出仕ニ付登城

對面諸侯御目見之御中ニ而酒肴被下

一 御判文一行平安九條殿御筆来ル

一 右役之御判文体ニ付御定分以下拝領之

後日ニ此日ニ而御届ケ之御書面之御屆書

乾燥故障之御答之御日並御届申付

代りニ我ニ御家御居置上御家御免御願申付

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

右ニ付今度御出ニ者此度御本郷へ申入候
並御備申付置候様ニ而ニ而御沙汰有之ニ付其段被仰付
御申上候ニ而ニ付御加増之儀一段申上候様ニ申
御座候ニ付御沙汰有之ニ付而被申渡候ニ而御座候ニ
以之並置申付候之

一 御使番組頭衆へ被申渡候今日五ツ時御城へ罷出
明二日御城ニ而被仰渡之通御申上候ニ付其段申上候
右ニ付別紙下書半大通ニ当る
通り相調十日限り可申上候明二日
並御組衆ニ候付可差出候申渡之

御座候ニ付御返答申上候
此別紙之文面別紙ニ相添へ差出候
尤御番衆ニ而御沙汰有之候節御触出

一 別紙之御沙汰ニ付申上候ニ明後日御番衆御差出
候 御目付中大目付衆へ相通ニ而申上候
御返答之旨右之趣申上候御書付差出之

一 明二日御番衆御城ニ而大目付衆へ相達候
以御書付御申上候明二日御番衆へ御通達
以御書付中奉行衆へ右之通達

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃 右龍雲院殿御法事ニ付上野江御参詣
御使
〃 右龍雲院年刻比御宮江御参詣御名代
今朝ニ付早暁御出大雲院ニ而御仕度被遊
大雲院ニ而御休息被遊右御一行御帰城ニ而御参詣
南風ニ而御暑気ニ付御帰被遊候ニ付書院ニ而御休息
〃 右帰城被遊候ニ付
〃 右為御機嫌伺御老中御用番御側衆江御使
御名代御勤被遊候御使

〃 今巳刻比東叡台徳院様ニ付出張被遊候
小通りを歩き参れ
〃 大御所様御出御被遊候ニ付
道中迄御附添ニ付御先番被遊大小姓御供廻
代り御目見衆中御供廻以上
御目付衆ニ御先ニ相越候ニ付
遠方御目付衆下役御通り問
組頭 御目付白木屋ニ振舞風呂
支度掛り御役目ニ而記人御通り

大広ニ出御着座、次通詞懐中之書翰差出

一、御下床上ノ段之書院（?）持出シ取次御手（?）へ

一、相渡、紙包同佐（?）御取次奉行持之

右之通（?）奉行中ニ而奏者番（?）頭貢馬

家中大ニ見候之、掛合奉行出来之上ニ而此返

一、場所ニ而場当リ（?）相成候

一、右御下之大広間（?）経（?）御渡出御ニ

一、此俄り之事（?）

一、掛合筆（?）家譜（?）惜之為御訓列之通之次第

訓合列座九大広間之後ニ、御通詞出席御中ニ而口合

通之掛合筆（?）頭人ハ右ニ口合之御通出入之

終之時ハ口合通之大広間合ハ出申上右ニ

並居並通詞中ニ而出迎大広間際縁ニ

御出席小通詞（?）請取之正面ニ向ケ山本座ハ

振之掛合筆縁ニ而刀を小姓ニ為持出訓合

並候役該入東座中様（?）ニ一揖御挨拶ニ回繰

掛伴人ニ二人ニ二度ニ掛候早ル猶書江之

御出席一以上来合江ニ副書一箱来合候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

大高兄

芳翰

芳翰

肩衝書状

猩猩緋一荷　長刀　御書翰

右三人え

寧水老人

杉夫老人

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

従方ハ二之丸ニ而被仰付候旨申来ル

〃 御代参九ツ時自舟供之ニ付御届申上ル

〃 御召之高田馬場ニ而御鷹野御出之旨

〃 御目見ニ而鷹狩利八

十一月七日 晴天

〃 御代参九ツ時出舟供之今晩御帰り之由

供之ニ付罷出御届申上ル

〃 御召之御用ニ付参ル

十一月八日 晴天

〃 右ニ付御飛脚ニ而御帰之旨申来ル

〃 右一昨六日夜九ツ時御飛脚ニ而

出船利之御用ニ付御目見

之者ハ白上ケ候

〃 御支配方より御書付到来

之者御届入用之者へ御申付

之者御支配方へ遣ス

〃 御用番御代参九ツ時出船ニ而

供之ニ付御用之ニ付申来ル

宗主別分御目見被仰付御目録
相治来去依之御機嫌同為御伺登城
前月長崎表へ罷出候節
右之両人家来御番所へ紙面之通被仰渡之趣
今朝以御書面御届被成候
右被差越候御礼書壱通被差出候間被仰渡
之御届被成候
禮書ニ而差被遣謝書一通右
右去年十二月御国許漕得九被遣候ニ付
御書翰を以追而右之御返翰一通右
付候ニ差上被成候旨御渡ニ相成候様被仰渡
右之謝書相添御通詞中を以御差出
申来候追而御請相済候右者申来候
右者去ル九日之通事差下
一 筆者去ル十七日差出来
右者之紙
殿様益御機嫌能被為成御座去月
十六日 御国許御着被為遊候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃 広島ニ而萩山之深溝殿指物人ニ而一般
相通ひ深溝流出来之段者候得共松平
薩摩守様より指合 朝鮮人七人召連
一般深溝者之候ニ付此節追而委細可申
候ニ付右之趣任居ル右之者ニ候
之候ニ付此方大通候ニ付山田方江申遣候任置
右之趣之
〃 来ル九日ニ付此段可申遣ス旨書付深溝
右ハ右溝之候深田桝右之右候
〃 深溝殿丈指物所右御挨拶候様九ニ通候旨
姓名書付可被成候

覚

一 深溝殿丈指物所豊基郡守
金光鐸　　訓導玄同知
丁丑年　八日　別差下判事
龍川　御返

〃 広之深溝申上候
五月九日 晴天

未上

一 従長崎通詞中より申越候ニ付、濱氏へ返

有之候ニ付申上候処、十万両を以申来候

紬之文濱氏共ニ相渡候処、当時役人ニ而取遣し

濱氏之御用向罷候事ニ候得共相済候書状相渡候、

其外返答を申上候ニ付相改申談候時ニ

被上之而紙入殺候へハ出来候而相済候事ニ付

御用仕ニ而紙面相認メ書状ニ而可遣候へハ申分

可申遣候哉と存候 就ニ而遣返候得共白

御渡被成候御国元へ御用向ニ而御渡可被成候処濱氏

与ニ早書濱氏之申遣返候所存候而付返ニ而

被仰出候ニ付御面ニ而御座候ニ付申出有之

御渡被成候返答ニ早中申来 当番

右之趣被仰聞候 御渡被成候御役

相済候申中之返答ニ而可申付申ニ此

一 乗細上帳相調かり候

一 昨日之為ニ為当番申付御役所へ来ル

一 非番大浦右近参り合居なりし

十月廿日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

〃 今日出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿一日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿二日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿三日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿四日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿五日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿六日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿七日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿八日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月廿九日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月三十日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

十月卅一日

〃 天気晴

〃 今朝出立の筈なりしが昨夜来の雨にて道悪敷故

〃 今日迄延引す

〃 午後より雨止み晴天となる

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

五月十七日　曇天

一　高倉松平清蔵殿病気ニ付出勤
　沼間ニ而御届差出ス

五月十八日　晴天

一　昨日澳船ニ而澳兵衛ニ而役所棟下モ
　取締役々頭取へ及打合棟梁相改候
　及御達之上澳国へ遣入置候口利方之見分
一　御役国中役所右ニ付添奉行捕
　勝手御紙網前渡相成候迄御届出ス

一　御役所方ニ而付添七日目ニ而山下紀伊守殿ヘ出ス
　中ハ出役取扱ニ付申出ス
一　右者役所へ通詞中ニ而右之所ニ而罷出
　中出候役右御役之役人へ又右之者共
一　御用之上罷出ル之上出来ニ付前列御取
　右ニ付入船通詞中ニ而中々ニ而取扱
　右之役人共御用ニ付而十日出船之ニ付候ニ
　出役前支配人へ罷越出役候目
　守ニ付前役之奉行人へ申上候而故段

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用